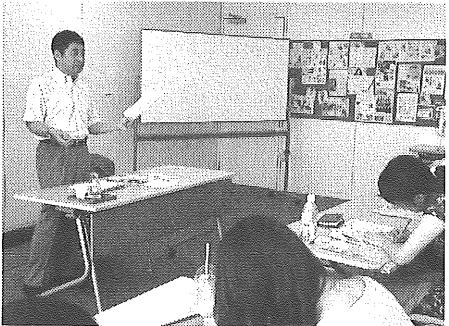


ライター養成に本腰

日本野菜ソムリエ協会

日本野菜ソムリエ協会（福井栄治理事長）では、野菜ソムリエを職業として活動できる人を育成する「野菜ソムリエ職業化プログラム」を実施している。このほどその一環として「ライター養成編」を行った。



これは投稿、コラム、ウェブ記事など「文章」で野菜・果物の魅力を発信したい人用のプログラム。様々なメディアが登場する中、ひとつの文章や記事に、じっくり落ちていて目を通してもらえないことも多い。

講師を務めた農経新聞社の宮澤信一社長は、結論を先にまとめること。最後まで読まなければ主旨がわからないのでは読んでもらえない。起承転結は、それまで述べてきたことを途中で否定してひっくり返すので、ライターの文章の組み立てとしては論外」としたうえで、基本的な文章の組み立て方に加え、生産者や流通業者などから話を聞き出すときの留意点、最低限の質問事項、心構え、事前準備などを解説。

また、「日本では野菜は余っており、耕作放棄地の無秩序な活用はいつそこの価格安を引き起こす懸念がある」「消費者は所得が減っても加工食品、飲料、携帯電話など、自分が価値を認めたものへの消費は減らさない」など、野菜ソムリエが知っておくべき青果物流通の現状も紹介した。